

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(4月)

発表日：6月13日(月)

～ 高水準にある稼働率。先行きの設備投資の下支え要因に ～

(No. J - 42)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
03	1-3月	0.6	6.9	3.0	23.6	▲1.9	3.7	▲1.1	▲2.3	▲2.2	▲4.4	▲0.5	▲0.9
	4-6月	0.0	3.9	▲2.1	2.3	▲1.1	1.8	▲0.6	▲2.6	1.2	▲2.8	▲0.8	▲1.7
	7-9月	0.6	1.6	6.4	4.5	1.6	▲0.5	▲0.4	▲2.5	▲0.1	▲2.4	▲0.3	▲1.5
	10-12月	3.5	4.1	7.1	12.9	2.9	1.2	▲0.1	▲2.3	0.6	▲0.6	▲0.1	▲1.6
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.6	1.7	▲8.4	3.4	5.9	▲0.3	▲0.3	0.3	8.7	1.0	▲1.5
04	1月	2.5	4.8	▲0.2	12.8	1.5	▲0.9	▲0.4	▲1.8	▲0.3	1.4	▲0.1	▲1.8
	2月	▲4.0	5.5	▲3.3	11.9	▲3.3	2.0	▲0.1	▲1.7	0.0	1.4	0.0	▲0.9
	3月	0.9	7.5	2.5	15.0	2.5	9.3	0.2	▲1.5	2.8	4.8	0.0	▲0.9
	4月	2.7	6.7	▲0.1	15.2	4.5	9.8	0.2	▲1.0	1.3	4.6	0.0	▲0.8
	5月	0.0	3.1	1.3	15.8	▲2.3	▲0.4	▲0.4	▲1.2	1.4	5.5	▲3.1	▲3.4
	6月	▲0.1	7.2	▲1.9	14.9	2.4	9.9	0.1	▲0.8	0.0	6.5	0.5	▲2.9
	7月	0.4	4.7	▲3.0	5.4	▲1.5	3.6	▲0.1	▲0.8	0.8	7.3	0.0	▲2.9
	8月	0.2	8.4	1.7	7.0	▲1.5	6.1	▲0.1	▲0.7	0.3	7.5	0.0	▲2.9
	9月	▲0.5	4.1	▲5.7	▲3.8	3.1	6.1	0.0	▲0.7	0.2	7.2	0.2	▲2.5
	10月	0.0	▲0.2	▲0.2	▲7.4	▲0.5	▲0.9	0.0	▲0.5	2.1	9.2	0.0	▲2.5
	11月	0.8	5.6	▲2.6	▲8.3	1.5	10.0	0.0	▲0.5	0.1	9.5	0.0	▲2.5
	12月	▲1.4	1.2	0.7	▲9.9	▲5.1	▲0.3	0.0	▲0.4	0.3	9.3	▲0.1	▲2.6
05	1月	3.1	1.6	2.7	▲9.0	6.8	5.3	▲0.2	▲0.2	▲0.3	9.4	1.1	▲1.5
	2月	▲1.7	1.8	▲0.7	▲8.1	▲0.4	7.2	0.0	▲0.1	0.3	9.7	0.0	▲1.5
	3月	▲1.2	1.4	▲0.5	▲8.3	0.1	5.2	▲0.1	▲0.4	0.4	7.1	0.0	▲1.5
	4月	4.3	2.6	2.5	▲6.8	5.7	5.6	▲0.1	▲0.8	▲0.8	4.9	0.0	▲1.5

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

○ 高水準にある稼働率。先行きの設備投資の下支え要因に

本日公表された4月の稼働率指数は前月比+4.3%(3月同▲1.2%)と大幅に上昇した。指数水準も1997年5月以来の高さである。四半期で見ても、1-3月期に前期比+0.9%と上昇した後、4月の対1-3月期比も+2.9%となっている。

昨年後半に鉱工業生産が若干弱含んだ時期にも、元々稼働率指数の落ち込みはほとんど見られなかった上、今年1月以降は再び緩やかな上昇傾向に戻ったように思える。こうした稼働率上昇の背景としては、年明け以降に生産が下げ止まったことに加え、生産能力が緩やかな低下傾向を続けていることが挙げられる。4月の生産能力指数も前月比▲0.1%、前年比▲0.8%と低下しているが、このことは、企業は増産投資に依然として慎重であることや、老朽化した設備の除却を引き続き進めていることを示している。このように、足元では設備ストックの積みあがりは見られておらず、稼働率も高水準にある。こうした稼働率の高さは、先行きの設備投資についての一つのサポート材料となるだろう。本日公表された2次QEでも設備投資の底堅い動きが確認できたほか、企業収益も原油高などの悪材料があるなかで比較的底堅い。足元では、輸出の弱さを主因として景気は踊り場を脱しきれてはならないものの、設備投資に関しては今後も景気の足を引っ張る要因にはならないものと思われる。

なお、今月の稼働率指数(前月比+4.3%)と生産指数(前月比+1.9%、速報段階から0.3%Pの下方修正)

とのヘッドラインの数字の大きな相違は、生産能力指数が低下傾向を続けていることのほか、生産指数と稼働率指数の構成品目やウェイト、季節調整の違いといった要因が複合的に組み合わさったことによるものであると考えられる。さほど気にする必要はないだろう。

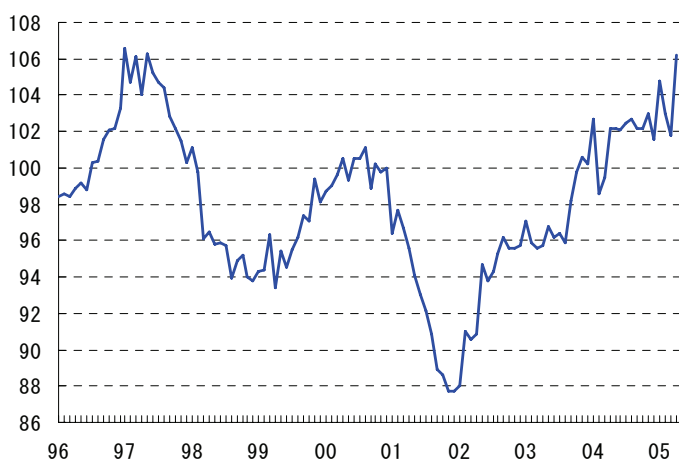
○ 谷が浅ければ山も低い？

本日公表の稼働率・生産能力指数は全般的にポジティブな内容だったが、一点気になることがある。それは、電子部品・デバイス工業において、生産能力指数の調整があまり行われなかったことである。

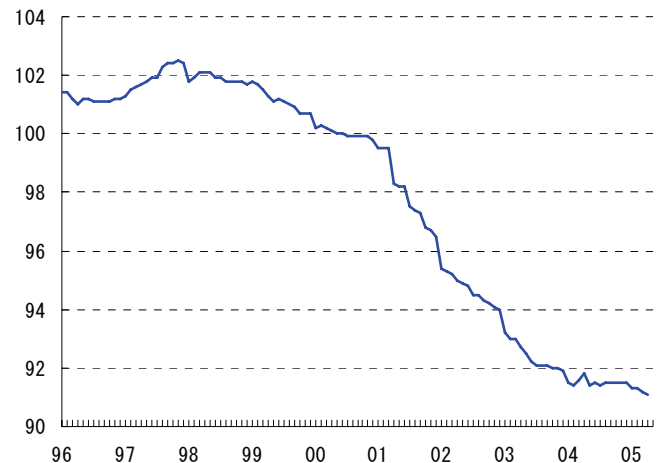
通常、シリコンサイクルの下降局面では、関連製品の需要急減や価格急落から投資が減らされ、生産能力は大幅に低下する傾向がある。下降局面において生産能力を十分に調整しておくことが、次の上昇サイクルにおける増産投資の急激な増加をもたらし、生産回復力を強める一つの要因となる。しかし、2004年夏場以降の局面では、電子部品・デバイスの生産能力指数はほとんど低下していない。このことは、2004年後半における鉱工業生産の落ち込み度合いを小さなものにとどめた一方で、先行きの半導体製造装置等の設備投資需要増加を限定的なものにし、先行きの生産回復力を通常のリバウンド局面よりも小さなものにするという結果をもたらす可能性がある。

IT関連財の在庫調整は4-6月期には既に終了する可能性が高い。その後、7-9月期には回復局面に復すると予想されるが、その回復力に関しては、過去の回復局面と比べると鈍いものにとどまる可能性があることには注意しておく必要があるだろう。

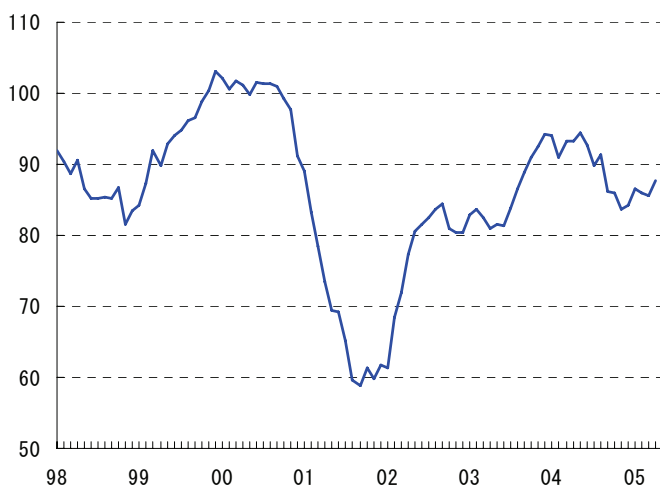
設備稼働率（季調値、指数）



生産能力指数（製造工業）



稼働率・電子部品・デバイス（季調値、指数）



生産能力指数・電子部品・デバイス（季調値、指数）

